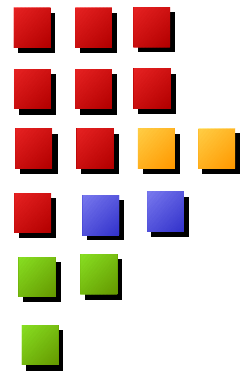


「経営とは何か」を考える

- 経営とは営みを経て目的・社会的使命を達成すること -



佐野短期大学
第1学年経営実践特別講座資料

2008年12月3日(水)
14:30 ~ 16:00
佐野短期大学

開倫塾
林 明 夫

1. はじめに

(1) 自己紹介 - 私の仕事、活動 -

1つ1つの仕事や活動には、各々の目的・「社会的使命(mission、ミッション)」がある。その各々の目的・「社会的使命(mission、ミッション)」を果たすことが、そこに所属する方々や関係する方々の人生における成功の実現に貢献し、正常に機能する持続可能な社会の形成に役立つ。そう考え、仕事や活動をしている。

株式会社開倫塾 代表取締役社長

* 小学生、中学生、高校生の学習指導(栃木県、群馬県、茨城県内)

マニー株式会社 社外取締役

* 手術用縫合針製造(宇都宮、ハノイ、ヤンゴン。今後、ピエンチャンでも)

宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授

* 工学系大学院生の教育

社団法人経済同友会 幹事、対内直接投資推進委員会 副委員長、役員選考委員会 委員

* 政策提言策定

学校法人友朋学園東日本高等学院 評議員

* 不登校であった生徒に高校教育

社会福祉法人両崖福祉会特別養護老人ホーム清明苑 理事

* 老人介護施設

栃木県生産性本部 理事

* 生産性向上と経営品質向上

開倫ユネスコ協会 会長

* 人間の安全保障(Human Security ヒューマン・セキュリティ)の推進

開倫研究所 所長

* 地域のシンクタンク。「教育経営品質研究会」を、毎月、東京で開催

CRT 栃木放送「開倫塾の時間」毎週土曜日 9:15 ~ 9:25 担当

* 勉強の仕方、「学び方を学ぶ」能力の育成

読売新聞 栃木版「とちぎ寸言」コラム担当

* 栃木県の経済活性化と県民生活向上への提言

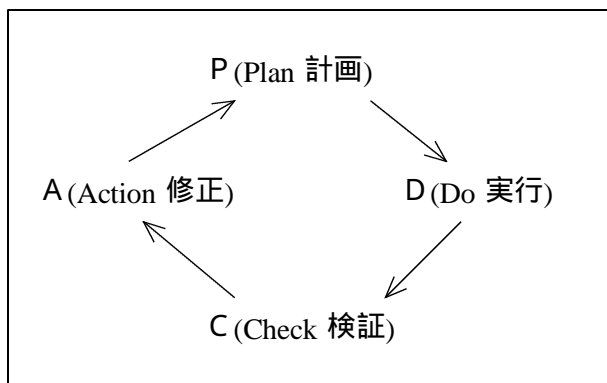
月刊「私塾界」、「林明夫の歩きながら考える」コラム担当

* 学習塾・予備校・私立学校の経営者の経営能力向上

(2) 本日の講義の目的 - 「経営とは何か」を考える -

経営とは何か、仕事をするとは何か、活動するとは何かを目的・「社会的使命(mission、ミッション)」という観点から考えることの大切さを「理解」すること。

仕事や活動をし、結果(成果)を出し続けるために求められる『P(Plan プラン、計画) D(Do ドウ、実行) C(Check チェック、検証) A(Action アクション、修正)』の意味を「理解」すること。



「社会に出てから求められる能力」とは何かを「理解」すること。

(3) お願い - 真剣勝負で講義に臨むこと -

「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心に)」お話ししますので、「私語(おしゃべり)」は「絶対」にしないで下さい。

よくわからないところは、話の途中や QandA のところで遠慮なく御質問下さい。

大切と思われるところ、よくわからないところは、この講義資料にマークをすること。また、資料に書いてないことで大切と思われることは、メモ(ノート)を取り続けること。講義終了後、資料やメモ(ノート)を何回も読み返し、一度「理解」した内容を「定着」させることが、「応用(世の中に出て役立つ)」に繋(つな)がります。

2. 企業活動とは - 開倫塾の場合 -

(1) 経営理念 - 経営する上で最も大切にしていること -

顧客本位

独自能力

社員重視

社会との調和

* この4つの経営理念は、開倫塾で取り組んでいる「日本経営品質賞」の示した「卓越した業績(Performance Excellence、パフォーマンス・エクセレンス)」の内容。

この4つの経営理念が実現できてはじめて、「卓越した業績」を達成できたと考える。

(2) 経営目的、教育目的 - 開倫塾の経営とは、営みを経てこの目的を達すること -

高い倫理

高い学力

高い国際理解

自己学習能力の育成

* この4つの開倫塾独自の「経営目的、教育目的」は、OECD(経済協力開発機構)のPISA(15歳時国際標準学力テスト)の基底となった学力観であるキー・コンピテンシー(Key Competencies)に具体的に示されていると考える。

開倫塾の経営目的、教育目的	キー・コンピテンシー (鍵のように大切な基本的能力)	社会認識
高い倫理	自律的に活動する能力	超高齢化社会
高い学力	道具(知識・情報・技術など)を相互作用的に用いる能力	知識基盤社会
高い国際理解	多様な集団で交流する能力	グローバル化社会
自己学習能力の育成	Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン 学び方を学ぶ)能力 読書(新聞も含む)による思慮深さ	

* この ~ の3つの「キー・コンピテンシー」とキー・コンピテンシーをつくりあげるとの能力が「社会に出て求められる能力」と私は考える。

* Key Competencies for a Successful Life and a Well-Functioning Society

人生の成功と正常に機能する社会のためのキー・コンピテンシー

(3) 経営方針

学ぶに値する塾づくり

(ア) 学校成績向上

(イ) 希望校合格

働くに値する職場づくり

(ア) empowerment(エンパワーメント)

- 〔・「能力強化」
- 〔・「権限委譲」

能力を強化した上で権限を委譲し、一人ひとりの生産性を上げ、雇用を維持・確保

(イ) employability(エンプロイアビリティ、雇われる能力)

- 〔・経営幹部としての employability
- 〔・マネージャーとしての employability
- 〔・一般社員としての employability

倒産しない会社づくり・閉鎖しない校舎づくり

(ア)企業は原則倒産

(イ)校舎は原則閉鎖

(4)行動目標

教え方日本一

(ア)授業毎に必ず「LESSON PLAN Lesson Plan」を作成

- 〔・塾生やクラスの実情に合わせた計画(Plan)づくり
- 〔・授業中は、Lesson Plan の中に気づいた点をメモ(memo)し続ける
- 〔・授業後には、Lesson Plan に基づき自らを reflection(リフレクション、振り返り・熟慮・熟考・省察)
- 〔・Lesson Plan は、先生としての成長の記録

Plan	Do	Check	Action
------	----	-------	--------

(イ)日本一の研修システムづくり

(ウ)模擬授業

*年に一回、「全国模擬授業大会」を足利学校のある街足利市で開催

塾生数北関東一

(ア)まずは、栃木県の全域に開倫塾を開校。学習塾を選ぶ際には、開倫塾という選択肢を持っていただきたい。豊かさとは、選択肢があること。

*本年は、NASU ブロックを開設。7月に矢板校、大田原校、黒磯校を開校。12月には西那須野校、那須校を開校。

(イ)2009年度中に、栃木県内50校の開校を終了させるのが短期の行動目標。2010年度より順次、群馬県、茨城県、東京都川の手地区で各々50校ずつ開校。200校まで持っていく、塾生数を北関東一にすることが中期の行動目標。

(ウ)そのためには、

P	D	C	A
---	---	---	---

を成功の状況と原因、失敗の状況と原因を絶えず振り返り反省・分析。その情報を共有化しながら、PDCAをさらに徹底的に回し続けなければならない。

この 2 つの行動目標達成のために、各地域ごとではやっている学習塾の「競合比較」と社内・社外・同業他社の「ベストプラクティスのベンチマーキング」とその情報の共有が欠かせない。

(ア)「競合比較」

(イ)「ベストプラクティスのベンチマーキング」

*「暗黙知の共有化」

(5)開倫塾の業務

教育業務

募集業務

基本業務

(6)開倫塾の禁止事項

セクシズム(男女差別)禁止

エイジズム(年齢差別)禁止

レイシズム(出身による差別)禁止

法令違反行為禁止

夜 11 時以降の勤務禁止

(7)開倫塾の社会的使命(mission ミッション)

成功の実現に貢献

正常に機能する社会の形成に貢献

* 持続教育 ESD education for sustainable development (持続可能な社会の形成のための教育の推進)

企業市民(Corporate Citizenship コーポレート・シチズンシップ)としての社会貢献活動の推進

<p>* CSR(Corporate Social Responsibility コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ) 企業の社会的責任を果たすため</p>

3. 現代社会で求められる大切な能力とは

(1) 現代は「知識基盤社会(Knowledge Based Society ナレッジ・ベースト・ソサイアティ)」。

そこで求められるのは、「知識・情報・技術などを相互作用的に用いる能力」。

「知識」とは、小学校、中学校、高校、専門学校、短期大学、大学、大学院などの教育機関で学ぶ内容と考えてもよい。

(ア) 佐野短期大学で学んでいる教育内容は社会に出てすべて役に立つ。十分「理解」した上で、スミからスミまでしっかり「定着」(身に付ける)。学年末試験で全科目最高の評価を得ること。

(イ) そのためには、12月に入ったのだから、試験の当日まで「勉強、勉強、また勉強」の毎日を過ごすこと。

(ウ) 年末や正月に遊び呆けては「知識」は身に付かない。

「情報」とは、新聞、雑誌、インターネットなどによって得られるものとする。

(ア) 大学生は「新聞」を毎日1時間以上読んで、世の中のことを批判的に考える能力を身に付けること。

(イ) 専門分野については、専門の「雑誌」から情報を得ること。

* 専門分野は何か何でも1つ以上必ず持つこと。

(ウ) 自分の専門領域にしたいテーマが決まったら、「インターネット」を用いて情報を得ること。

* 早めに英語を身に付けると、英語により世界中の情報がインターネットから得られる。また、こちらからも英語で発信できる。

「技術」とは、専門領域についての「理論」を「理解」し、「定着」つまり身に付けた上で、実際に「応用」できることをいうと考える。

(2) 現代は「グローバル化された社会(Global Society グローバル・ソサイアティ)」「フラット化した世界(The World is Flat. ザ・ワールド・イズ・フラット(トマス・フリードマン著))」。

そこで求められるのは、「多様な集団で交流する能力」。

「多様性(diversity ダイバーシティ)」とは、

(ア) 自分と異なった成育環境、言語、文化、価値観を持った人々を、そのまま自分と同じくらい大切にし、その存在を認めること。

(イ) Human Dignity(ヒューマン・ディグニティ)、人間としての尊厳を大切にすること。

(ウ) Tolerance(トレランス)、忍耐・寛容を大切にすること。

コミュニケーションの手段としての英語は、何か何でも身に付けること。

(3)現代は「超高齢化社会」。

そこで求められるのは、「高い志」と「自律的に活動する能力」。

超高齢化社会とは、健康に気をつければ多くの人が80歳以上まで生きられる(人によっては100歳以上まで生きられる)社会。

社会に負荷をかけず「いつまでも若々しく生きる」(日本にヨガを紹介した中村天風先生)ことを目指そう。

自己責任。自助努力。

やってよいこと、悪いことを知ること。(「法」と「道徳」とは何かを知ること)

躰(しつけ)を身に付けること。

(ア)美しい立居振舞(たちいふるまい)

(イ)敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

私の好きな言葉

(ア)「教育ある人(Educated Person エデュケイティド・パーソン)とは一生勉強し続ける人」(経済学者、ドラッカー先生)

(イ)「一生勉強、一生青春」(足利市出身の書家、相田みつを先生)

(ウ)「If you can dream, you can do it! (もしあなたが夢を見ることができれば、あなたはそれをすることができる)」(ヒューストンの宇宙技術者の合言葉)

(エ)「歴史における個人の役割」(ロシアの革命家、プレハーノフ)

(オ)「持続する志」(小説家、大江健三郎のエッセイ集)

(カ)「ブルドック魂」(食いついたら離すな)(足利市立山辺中学校のクラス担任、岡田忠治先生)

(キ)「練習で泣いて、試合で笑え」(足利市立山辺中学校柔道部監督、椎名弘先生)

(ク)「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組もう)」(足利高校マラソン大会の合言葉)

(ケ)「独立自尊」(慶應義塾創始者、福沢諭吉先生)

(コ)「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥、ぜあみ)

(サ)「(あなたは)本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」(京都一燈園、石川洋先生)

4. おわりに

(1)

P	D	C	A
---	---	---	---

 を回すとは

P(プラン、計画) D(ドゥ、実行) C(チェック、検証) A(アクション、修正)

計画の前に、まず「仮説」を置き、ある「前提条件」や「条件設定」のときの「最善策」を立てる。

このような条件のもとならこのような結果になるはずだという「仮説」を実証するように、計画を立て、実行してみる。実行して、予定通りの結果が出たか否かを検証。もし、出ていなければやり方を変えて、つまり修正してやり直す。これを繰り返し目的を達することが経営。

「どのようなときに、どうなった」「どのような行動をしたときに、どうなった」という「因果関係(いんがかんけい、原因と結果の関係)」を十分に分析。因果関係についての情報を共有化し、企業として同じ失敗を繰り返さないこと。

(2) どんな仕事や活動にも、教科書・テキストはない。そこで、自分自身で、自分自身用の教科書・テキストを作る以外にない。仕事ができるかできないかは、「メモ」を取り続けることができるか否か、その「メモ」を自分専用の教科書・テキストとして後日何回も読み返して十分「理解」した上で正確に身に付けたか否かで決まる。「メモ」は大事。仕事や部活動のための専用教科書。

(3) 但し、一番大事なものは、健康(心の健康と身体の健康)。くれぐれもお体を大切に。

以上

- 2008年12月3日記 -